

# 令和2年度第1回中野市総合教育会議 会議録

- 1 日 時： 令和3年2月2日(火)午前10時00分から午前11時45分まで
- 2 場 所： 中野市役所 5階 会議室52. 53
- 3 出席者： 市長 湯本隆英、教育長 堀内敏明、教育長職務代理者 永江文樹、  
教育委員 小野良一、山本圭子、相子靖子  
総務部長 酒井 久  
教育次長、学校教育課長、生涯学習課長兼図書館長、学校給食センター所長、公民館長、  
学校教育課総務係長、学校教育係長、施設係長、清野指導主事、荒井指導主事、宮崎主査

## 4 会議事項:(進行 市長)

- (1) 中野市教育大綱の進捗状況について(資料により学校教育課長、生涯学習課長兼図書館長、学校給食センター所長、公民館長が説明)

市長：ただ今、事務局から説明がございましたが、本日本お集まりの教育委員の皆様から忌憚のないご意見、ご質問等ございましたらよろしくお願ひいたします。永江先生いかがですか。

永江代理：まず最初に「信州なかの」ふるさと学習の推進とありますけれども、子ども達が地域の事を十分に理解することが、地域に愛着をもつ第一歩だと思うのですが。この間テレビを見ていまして、日曜日の「プロフェッショナル」というNHKの番組を見ていましたら、〇〇のご主人が料理を教えに福井県へ行ったというんですね。その時の高校生の言葉が何かというと「福井には未だに何も無い、こんな何も無い特色のないところは嫌だ」と。そのうちに色々教えていく中で、福井にもこんな良いところがあるんだよと高校生に言うのだけれど、やっぱりそれは、よその人たちにはよく分かるのですが。子ども達には、普段そこで一緒に暮らしている私たちが教えてあげるのがいちばん良いのかなという気がしております。ここにあります「ふるさと学習」というのは、そういう意味では非常に良いと思いますが、③の有形・無形の文化財の保存・活用・継承うんぬんと書いてありますが、ここにあるものは、なかなか小学生にはなかなか理解しづらい、大人には大変良いものなのですが、この辺はもう少し小学生にも分かるように、工夫していけば良いのかなと、今後の課題かなと思います。やっていること自体はこの1番のグループ学習の推進など非常に良いと思います。以上です。

市長：この件についてよろしいでしょうか。はい、小野委員。

小野委員：それでは関連して感想や意見を述べさせていただきたいと思います。教育大綱の中で五つ柱がありますよね、今一番上の柱について話題が始まったのですが、私はひとつずつやっていただいたほうが、意見が出しやすいのかなと感じています。最初のふるさと学習について意見を申し上げますが、私も非常に中野市に誇りを持って、そして将来大人になってから中野市に戻ってくるような子ども達にしたいなというふうに考えています。それにはやっぱり郷土を知ること、そして郷土の文化や人にふれてそれを実感することが大事だと思います。少し前に「わたしたちの郷土」とい副読本が作られて、間もなく改訂になるかと思うのですが、これは小学校3、4年向けの資料なのですが、見せていただくと非常に詳しく色々なことが網羅されています。やっぱりこの内容については、最低でも中野市の子ども達には、こんなこと知らなかったということではなくて、

やっぱり人に話せるくらいに知って誇りをもってもらいたいと思います。もちろん中山晋平先生や高野辰之先生のことも載っていますけれども、農業を開いた荻原さんのことも載っていたり、非常に大事な内容が載っていると思うので、こういった内容も含めて子ども達にふるさとについての愛着を幼いうちから植え付けていくことが必要だなと私は思います。それにはやっぱりこの本を見るだけじゃなくて、先ほど生涯学習の課長さんが言われたように、体験を通して、その場に行ってみて色々な事を体験しながら実感をするような教育を展開していく必要があるのかなというふうに思っております。ふるさと学習については以上です。

市長：それでは五つの柱がございますので、今、小野委員からお話がありました、最初の「信州なかの」ふるさと学習の推進から一つずつ進めて参りますのでよろしく願いいたします。最初のふるさと学習の推進について他にございますか。山本委員いかがですか。

山本委員：小野委員さんもおっしゃっていたように、小さい頃から住んでいるところに愛着が持てるようにしていくというのは、やっぱり学校で教えるだけでは難しく、家庭の中でもそういったことが必要かなと。学校の方も子ども達に「こういう子どもになってもらいたい」という指導をしているということも、もっと保護者の方に発信してみても良いのかなと思います。

市長：ありがとうございます。相子委員さん、いかがでしょうか。

相子委員：私は5年くらい前に移住してきました、中野市のことを新鮮な目で感じる機会が多かったので、その点で申し上げたいと思いますが、例えば農業体験だとか、郷土食、地元の食材を活用するというのは本当に素晴らしいことだと思っていて、ふだん通学路にリンゴの木がなっていて、目の前で育っているものが自分たちの口に入っていくんだということを五感で感じられることは本当に素晴らしいことだと思います。引き続き力を入れていく分野だと思うのですが、一方で当たり前すぎて気づかないことも多いと思います。私自身は埼玉で育ったのですが、ずっと平野のところに居たので、この地域に引っ越してきて山が多いなど。どこへ行っても常に高い山が見えているのは、すごく新鮮な景色で、この地域で育った方はあまり感じないと思うんですね、山があるのが当たり前だと。なので、比較する力も必要かなと思います。どのような特色があるのか、気候だったり地形だったり文化だったり、文化も地形や気候に根差したもので、寒いからこそ雪が降るからこそ保存食が発展したりだとか、そういった色々密接に繋がっている、これからの時代アクティブラーニング、主体的で深い学びが必要だといわれていて、学習指導要領なども改訂されると思うのですが、じゃあ自分から、この地域はどのような特色があるのか、問いをたてる力というか、どうこの地域は素晴らしいのか、他の地域と比較して何が違うのだろうという好奇心だとか、自分で一歩踏み込んで考える力を促してあげることが大事なかと、それがより愛着に繋がっていくと思います。ふるさと学習については以上です。

市長：ありがとうございます。酒井総務部長さん、いかがですか。

総務部長：私、気になったことなんですけど、大綱の③の長年にわたり継承されてきた、有形、無形文化財の保存・活用・継承を図り、なかのの歴史を学習する場を充実します。大綱でうたっているのですが、これを変えるわけにはいかないと思うのですが、大きな1番で「信州なかの」となっていて、ここで平仮名の「なかの」だけ出てくるのはちょっと違和感を感じたところです。ここは「信州なかの」でやれば良いところですし、それか「なかの」だけではなく「中野市」と言ったほうが正しいのかなと思います。令和3年度まで

ありますので、この次に作る時は言葉づかいを直してもらったほうが良いかなと思いましたが。視点が違って大変申し訳ないのですが、そんなふうに感じましたのでよろしくをお願いします。

市長：堀内教育長さん、いかがですか。

教育長：今まで出されたことを、その通りだなと思いついていたのですが。今はふるさと教育というと日本全国多くのところでやっていますが、もともとの中野市、特に豊田村です。ね、今度豊田小学校が開校しますが、高野辰之先生出身というところもあって、あの楽曲は漢字の「故郷」からきているのですが、私の記憶では、豊田地域では昭和51年からふるさと教育ということで、地域に根差した教育をやっているということで、やはり日本全体、学習指導要領が日本の文化をきちんと子ども達が大事にするという教育からスタートしてきているというふうに思いますが、以前から中野市の子ども達にそうしたことを願ってきていると。それを実現していく時には、中だけ見てきても、育った自分の周りの環境だけ見てそれが当たり前すぎて、良さが分からない。確かに今意見が出されたように、比較あるいは対比していく必要があるかなと思います。私事で恐縮ですが、下の息子が今年度の4月から神奈川の方で就職したのですが、1月に戻って来て、雪化粧をしたまわりの山を見て、こんなにきれいな山は神奈川あるいは他では見られない、信州の山ってきれいだよな、というような事を言って、写真をずいぶん撮っていました。やっぱり外へ出て初めて良さが分かる、という事があるので、学習においてもそういった対比あるいは比較、こうしたことを学習の中に入れていくことが大事かなと思います。私が自分で担任した時に、中野騒動を子ども達に調べさせて、自ら色々な資料を持ってきながら、自分たちでまとめていく。そんなことが子ども達にとって、自分たちの住んでいる中野市の歴史をまさに感じ、そして歴史ですから、今とこれからというところまで考えていく、そういうようなきっかけになったかなと、お聞きしながら思い出しました。以上です。

市長：ありがとうございます、この件について他にございますか。それでは、次の2番の地域が支え地域に学ぶ生涯学習の推進について、何かございましたらどうぞ。小野教育委員さん。

小野委員：それでは、それぞれの柱ごとに考えていって見ますが、生涯学習について、私はコミュニティスクールの運営委員をやらせていただいているのですが、やっぱりこれからコミュニティスクールを効果的に運営していくには、生涯学習とのコラボレーションというんですかね、それがとても大事だなと実感しています。学校ごとにボランティア等を色々な通信等で募集しているのですが、やはりここにあるように、人数的にも限界があるし、幅がなかなか広がってこないし、高齢化も進んでいるということで、そここのところをなんとか今生涯学習で、公民館さんや色々な〇〇会さん等々、活動されていて、その成果を子ども達に繋げるような希望を持っているところもあると思うんです。そういうようなところとコラボレーションしながらコミュニティスクールの活動がもっと活発になっていけば、子ども達のためにもなるし、それから活動されている方も良いのかなと常々感じていますので、そのへんの工夫をこれからしていく必要があるかなと思っています。以上です。

市長：ありがとうございます、他にございますか。永江教育委員さん。

永江代理：お願いいたします。今小野委員さんがおっしゃったように、だいたいこういう活動に参加する方が高齢化してきている、公民館も博物館も色々やっておりますけれども、集

まってくる人たちを見ていると、私より10歳以上上かなという人がかなり多い。やっている事はきちんとやっけていて良いのですけれども、他の年齢層、世代の人たちと接点がない。小野委員さんがおっしゃるように、子ども達とコラボレーションして何か活動すると、また違った視点が出てくるのではないかなというような気がしています。博物館もしょっちゅう色々なところへ行事で回っていますけれども、やっていることは非常に聞いていて私も良いなと思うのですけれども、なかなか広がっていきにくいのかなという気が少ししました。

市長：他にございますか。どうぞ遠慮なく。はい、相子委員さん。

相子委員：4番の読書活動事業について、数点申し上げたいのですが。ファーストブックやセカンドブック事業というのがあって、私自身も2歳になる娘がいるのですが、大変良い事業だなと思っていました。これに関してなのですが、子育てをする中で、学習意欲の高い家庭にはどういう特徴があるのかという、東大の先生が書いた本を何冊か読んだのですが。そういう家庭で多いのが、図鑑を小さいころから読ませている家庭が多いということ。なぜかというと、図鑑から自然と学びたいという気持ちになれる子どもというのは、決して親に「勉強しなさい」と強制されるのではなくて、好奇心を幼いころから刺激されていると。その好奇心を刺激すると、小学校に上がった時にスムーズに学習に入っていけるようにするには図鑑が大変良いと書いてありまして。セカンドブック事業にも、予算の都合があると思いますが、是非取り入れていただきたいなと思っていて。その本の中では3歳くらいから与えていけば良いだろうと書いてありまして。例えばなのですが、この地域に生えている草花の図鑑ですとか働く車図鑑であったり、その子によって興味が様々だと思うのですが、恐竜が好きな子もいると思いますし、お菓子や食べ物だったり色々あると思うのですが。小さなものであれば千円くらいから、もし予算的に可能であれば是非取り入れていただければ、ふるさと教育や理解への興味、関心にも繋がっていくかなと思いますので、3歳あるいは5歳、6歳あたりで検討していただければと思います。

市長：はい、他にございますか。教育長。

教育長：公民館の生涯学習の件ですけれども、参加した方の感想を読ませていただくと、ほとんどが自ら積極的に参加していると。その感想の中に、以前にも同じような講座に参加したけれども、また新たなことを学んだといいますかね。そういうようなことが書かれていたり、初めて参加したけれども、こういう事が知らなかった、ということでその人にとってまさに生涯学習、生涯学んでいく姿のあらわれというように捉えて、ああ、こういう活動はとても大事だなということを、改めて感じたところでございます。それから市立図書館の件については、蔵書数と年度別貸出数を見ますと、だいたい蔵書数の6割くらい貸し出ししているということで、私はこの数字は多いほうじゃないかなと。他の市町村と比べていないので何とも言えないのですが、これだけ多くの人々が利用している、そしてただ単に本を借りているだけではなくて、交流の場にもなっている。行くと、小さいお子さんと絵本を探している親子の姿だとか、読み聞かせのイベントに参加していく姿も見るので、図書館の果たす役割、これは子育てしていく上でも大きいし、小学校に上がり、中学校へ進んでいっても図書館が単なる読書センターではなくて、調べ学習、調査学習ですね、そういうようなところでも役割を果たしていたり、あるいは情報源、情報センターとしても役割を果たしている。やっぱり図書館の果たす役割は大きいなと感じています。

市長：ありがとうございました。山本委員さんどうぞ。

山本委員：読書活動の推進ですけれども、うちの子ども達は、たまたま本を読む子だったのですけれども、長男が読書家で、それを見た次男も本が家にあるのが当たり前で、それを見て次男も本を読むようになったのですが、この間次男が言っていたのは「うちにはゲームがなかったから、本を読むしかなかった」と言ったのですけれども、今小学校、中学校のうちからスマホを持つようになってしまって、スマホと本があったという時に、やっぱり子どもはスマホを手にしてしまうのかなと思うのですけれども、小さい時から家に本があるという生活は家庭によって違うと思うので、家庭読書週間の実施、イベント、学校での読書週間を作るといった活動に力を入れていただきたいなと思います。

市長：はい、ありがとうございます。ではこちらから2点ほど質問させてもらっても良いですか。5ページの、市立図書館の蔵書数については書庫のスペースが満杯状態のため、劣化が著しい図書の除籍を行いながら新たな蔵書に努める、と言っていたのですが、これは例えば過去の名作が傷んで同じものを新調するという考えなのか、それとも除籍して全然違う今流行りの物の中に入れてくるという考えなのでしょうか。

図書館長：はい、まず表紙が破れているとか、中のページが破れてしまっているものは基本的に修理しながら使っているのですけれども、それに耐えられないような場合には除籍というような形になります。除籍する本にもよると思うのですけれども、それでもニーズがあるものであれば同じものを購入しますし、ニーズがこのところ離れているなという判断であれば、また現在の別の形でニーズのある資料の購入に努めているところです。

市長：今ニーズと言っていたのだけど、傷むということは、それだけニーズがあるということだから、それをまた新調するっていう考えもまたニーズだし、世界や日本の名作といわれる本が傷んでそれを新しくすると、今流行りでいるからそういう今まで傷んだ本をただ除籍して、今一番流行りのものだけを入れ替えていく発想なのか、ということを知っているわけで。名作というものはいくら傷んでもまた新調するのですよ。

図書館長：はい、おっしゃるとおりです。傷むということは皆様が読みたい、読まれている本ですので、そういったものは積極的に取り入れるようにしています。

市長：それと6ページの一番下のところに、令和3年度からファーストブック2冊のうち1冊は、お子様の名入りの絵本とする予定となっているが、この意味は。

図書館長：はい、ファーストブックで絵本を2冊プレゼントしているのですが、まだ0歳児ですので言葉は全然読めないのですが、中に出てくる主人公ですね、男の子が出てきたり女の子が出てきたりするわけですけれども、そういったところにお子様の名前を入れる。「〇〇ちゃん、ごはんよ」とか、お子様が主人公になった絵本を入れます。そういうことによって記念にもなりますし、本をとっても大事にするという感覚が芽生えると思うので、そういったところを大事にしていきたいなと思います。

市長：今の考え方ですけども、それはニーズがあるかもしれないけど、いわゆる本を読むことの楽しさっていうのは、その人に自分になり代わってという想像力が必要だというふうに思います。例えば主人公だったら、だいたいお母さんがその主人公の名前を入れ替えて、「俊哉ちゃん」とかさ、そうするはずなんだよね。だからそこに空白を入れてその子の名前を入れたって、小さい時にもらった本というのは読めば読むほどボロボロになっていくのだから、そこへその子の名前が入ることがひとつの考え、ニーズとしてあるかもしれないけど、私としては、それはいったい意味があるのかなと感じました。

それでは次に移らせていただきます。それでは3番、時代に対応した魅力ある学校教育

の推進について、どうぞ。はい、山本委員さん。

山本委員：質問なのですけれども、英語検定料の半額を平成29年度から助成したということなのですけれども、半額を助成する前と後では件数は違っているのですか。

学校教育課長：もともと助成しているものについては、日本英語検定協会が行っている「実用英語技能検定」いわゆる英検というもので、なぜこの英検について半額助成しているかというと、中学校を準会場として各中学校で取り組んでいる検定であるということで助成対象とさせていただいております。平成28年度には助成は行っていませんが、受験者数は学校で受験しているのは282人ですので、試算のところという約半分が申請をしてきたということになります。例えば平成29年度なのですけれども、実際に受験した子の延べ人数は323人です。検定ですので前年度と比べると受験者は増えているかなと判断できるかと思います。

市長：他に何かございますか、はい、相子委員。

相子委員：4番のタブレット端末のGIGAスクール構想に関連して意見申し上げたいのですが。今、子ども達がスマホやゲームに接する機会がとて増えてきているという話が何度か出てきましたが、良い面、悪い面があると思っていて、例えば検索して自分が知りたいことを調べるということにはすごく適していると思うのですが、今新しい学習指導要領で主体的、端的で深い学びと言われていていると思うのですが、問いをたてて自分で調べる力、自分にとって必要な情報を選び取る力、調べたこと、調べた情報、自分の考えを人に伝える力というのはこれからの時代大変大事なかなと考えておまして、これからの情報社会で、たくさんの情報に子ども達は接していくと思います。その中で自分にとって本当に大切な情報を選びとる力というのはすごく大事なかなと。今ある職業の半分ぐらいが無くなるだろうと言われてますし、自分で困難な時代を生きていく力というのをいかにして身につけてもらうか、そのためにGIGAスクール構想やプログラミング教育というのが大切だということを国が考えて推進していると思うので、ここは書き方をより工夫したほうが良い箇所かなと。先生方も戸惑う部分が多いと思いますが、一緒に子どもたちと学んでいく、一緒に考えていく。今の時代、優秀な塾の講師がユーチューブ(YouTube)で自分の授業をあげていて、すごい視聴回数になっていて。それを見れば勉強ができてしまうのではないかとされている時代で、受動的にダラダラと動画を見ているのは賛成できないのですが、上手く活用すれば本当に心強い味方だと思うので、先生たちが上手く、どう活用していけばより自分の将来に役に立つのか、一步踏み込んで考える力を考えていかなければいけないかなと思います。以上です。

市長：はい、ありがとうございます。それでは次にいきますが、よろしいでしょうか。はい、小野委員さん。

小野委員：はい、それでは7ページ、ALT(外国語指導助手)についてですが、ご承知のように小学校でも本格的に英語を教えるようになりまして、そうでなくても先生たちも、やらなければならない内容が非常に増えています。この英語学習もそうで、ぜひこの英語学習にALTのサポートが、掛け持ちではなくて各学校で充足できるような体制、少なくとも中学校3人という体制ではなくて、4人体制に工夫をしていただきたいなと思います。先ほど検定の補助の話もありましたし、海外研修の補助もありますけれども、もし予算的なことがネックになっているとすれば、一人のALTを増やす予算という効果と英検に補助をする効果とを比較してもらって、やっぱり現場の先生にとってどちらのほうが欲しいのか、少し考えていただきたいなと個人的には思います。以上です。

教育長：今英語の授業について小野委員の方から出されましたので、あくまでALTの力を借りて原則は担任が授業をする、というところが現場の課題であります。丸投げではなくてALTを活用しながらも、やっぱり担任が色々やっていくという、ただその中で専門性というのが大きなところでもありますので、中央教育審議会の方針でも、当然、英語、理科、算数を専科というところで教科担任制を出されているくらい重要なところでもあります。特に発音のところですよ。初めて聞くというようなところを大事にしたいなど。小学校では本当に楽しく学んでいる姿が圧倒的に多いです。そのところが段々と点数化していく、要するにテストで記述あるいは読解となっていく時に、英語嫌いになっていってしまう。そのところをどうやって、英語に出会った時の楽しさを継続していくかということが大事になるかなと思っています。それから相子委員から出された、これから非常に重要になっていく、まさに情報活用能力だと思いますけれども、色々な情報を集めるなかで自分にとって必要な情報というものをただ単に抜き出してくるのではなくて、それを引用しながら自分の考えをまとめていくという、ここまでできて初めて情報活用能力となりますので、そのところを一人ひとりが大事に学んでいく、まさに個別最適な学びということになるかと思うのですが、そして更に個々に学んでいくのではなくて、みんなで学んでいく事の良さ、まさに共同的な学びがでてくる、というようなところでこれからの教育に非常にICT教育が重要になってくる。あくまで手段であって目的ではない、使いこなすのが目的ではなくてそれを使って、そして力をつけていくというところですので、目的と手段をはき違えないようにしていくことが大事かなと感じています。以上です。

市長：他にございますか、よろしいですか、それでは4番目の柱、夢をもち、未来にはばたくキャリア教育の推進について。

教育長：私の方でよろしいでしょうか。ここは中野市の非常に特色のある教育ということで、私はこれからも大事にしていきたいなと思っています。まさにタイトルのように、夢をもち、未来にはばたくキャリア教育。キャリア教育を子ども達と読みかえれば、夢をもち、未来にはばたく子どもたちの教育、そのためにキャリア教育を大事にしているのだ、というところで、小学生にあっては夢の教室、まさにトップの、オリンピックでメダルを取った経験のある方の話を聞いたり、実際に実技と一緒に体験する、こういう中でまさに夢の体験ができる、そしてこのことがまた中学校に行ってjobセミナー等で、自分が将来どんなふうに住仕事について、あるいは社会人になっていくのか、というようなところで大事にしている。その効果が、例えば信濃毎日新聞に投稿した中学生が、自分がこういう職業につきたい、というようなところで出てきている。それからそういう職業観というのを、体験学習を通して持ってきている。ということで非常に大事な特色かなと。しかも中学校区のそれぞれの校長、教頭をはじめ、先生方が小委員を出しながら、うちの中学校区ではどのような教育を大事にしていこうかと毎年毎年考えながら積み上げてきている。こういうところをこれからも、中野市の教育の特色として継続し、更に上積みしていければなあと感じています。以上です。

市長：はい、ありがとうございます。他にございますか。それでは私のほうから、今の4番目の柱の①番目、この一流アスリートをお呼びしてということで、お子さんたちの生理学的なゴールデンエイジといわれる年頃でありありますから、これは非常に素晴らしいことだと思います。②の地元で活躍する各界の第一人者を招いてうんぬんというところなのですけれども、確かに地元でいらっしゃって、その方々から話を聞いて地元に残ると

いう選択肢もあります。私はできましたら、ここは地元ではなくて、市内外で活躍される中野市郷土出身の方というような枠をちょっと広げていただいて、そうしますと先ほどの比較論ではございませんが、中野から一歩出て都市部で活躍されながら地域の良いところ、または都市部の良いところの比較、なぜ私はこういう職業について今この立場にあるのか、何に興味を持ったから私は今世界で第一人者といわれるようになったかという方が必ず全国に散らばっていらっしやると思います。ですからその辺も名簿を集めまして、お子さん方にこの地域から出て、各界で活躍されている方がいらっしやると思いますので、あまり地元だけにこだわらずにちょっと枠を広げていただければと要望させていただきます。他にございますか、永江委員さん、よろしいでしょうか。

永江代理：市長さんが言ったことに尽きると思うのですが、地元で活躍しているという人材がだんだん限られてくる、そういう点があるので、県内の高校あたりでは県外出身の方で全国的に世界的に活躍されている方をお呼びすると、若干お金はかかるのですが、中学校一年生を市民会館に市内4中学校を呼んで一回やればそれで良いような気がします。一流の人の話を聞くのは非常に有意義だと思いますので、ぜひとも続けて欲しいと思います。

学校教育課長：その件について補足をさせていただきます。j o bセミナーの前の①で、①の中にキャリア教育講演会というものがあるのですが、実はこちらの方が地元の方にこだわらず、県外というか、全国的にも活躍されている方をお呼びして、学校全体でお聞きしたり、学年でお聞きしたりと大人数でお聞きをしているようなものになっております。一方、j o bセミナーのほうは、少人数のグループで地元の方にお話しをお聞きして、より聞きやすい状況というか、より具体的にお仕事を細かく聞けたりとか、大きいところと小さいところに分けて、それぞれ効果的にできるようにキャリア教育を進めているということを補足させていただきます。

市長：じゃあ、市外からも来ているということですか。

学校教育課長：はい。9ページ一番下の欄にあるのですが、この様な内容で実施しております。

市長：それなら、今度標記する時には、さっき種目でリュージュとかレスリングと書いてあるので、例えば医学界とか放送界とか、業種と、どういう業界の方をお呼びになったのかくらいは、羅列して書いておいていただければありがたいかなと。他にございますか。

はい、相子委員。

相子委員：キャリア教育、夢の教室に関して質問なのですが、今、来た分野・種目などを見るとスポーツの分野が多いなあと思うのですが、スポーツの分野以外の方がいらっしやることはあるのでしょうか。

学校教育課長：お答えいたします。平成30年度なのですが、ほとんどは日本サッカー協会のものを活用していますので、スポーツの方が多いのですが、平成30年度にフリーアナウンサーの方がみえておりまして、必ずしもスポーツとは限らず、文化系の方も講師でいらっしやるので、色々な業種の方を選んでいただいているというか、決めていただいているような状況で、今後また増えてくるのではないかなと思います。

相子委員：ありがとうございます。私自身は美術を勉強しておりまして、美術という分野は比較とか批判とか、なんと云えばいいのか。色々な視点から物事を見ることに長けている方が有名なアーティストさんにも多いので、そういったことも選考の対象にいただければと思います。スポーツの分野は本当に充実していて、趣味で親しんでいる方も多

いのではないかなという印象を受けていて。ぜひ美術の分野も、スポーツに馴染めない子も楽しめる機会を増やしていただければと思います。

市長：はい、よろしいでしょうか。この地域は四季がはっきりしておりますので、作曲家、そして美術家の方も輩出している地域ですので、スポーツだけにこだわらず、相子委員さんからの、文化、芸術家もよろしくお願ひしたいと思ひます。他にございますか、それでは5番目の豊かな心、健やかな体、確かな学力を向上させるため、安心して学べる教育環境の充実、5本目でございます、どうぞ。はい。山本教育委員さん。

山本委員：すみません、また質問で申し訳ないのですが、4番の部活動について、学校・体育文化活動事業の補助金交付実績で平成28年度の交付金額と令和元年度で交付金額に差があると思うのですが、これはどういったことなのでしょう。

学校教育課長：はい、予算の範囲内ということと交付をしておりますけれども、予算の中で各学校ごとに全体の講師のバランスをみて、お一人あたりにお渡ししているというところがありまして。また、外部講師に来ていただく実績が少ない年もありまして、そのようなことで少しばらついておりますが、基本的には予算の範囲内で行っているといひことで、お願ひいたします。

市長：指導者への補助金ではなくて、この下のですか。

学校教育課長：申し訳ありません、失礼しました。こちらは部活動で県大会以上の大会に出場した生徒に交通費と宿泊費の助成を行っているのですけれども、ですのでその時の成績によってばらつきが出ています。

市長：他にございますか。はい、小野教育委員さん。

小野委員：五つ目の柱に関連するか、3番の時代に対応した魅力ある学校教育の推進に関連するか自信がないのですが、いずれにしろここであげているキャリア教育で夢を実現するとか、色々こういったような子ども達にしたいとか、願ひを実現させるにはどうしたらいいか、どんな学校教育をするかということ、道筋を立てていく必要があるかなと思ひます。この13ページのところに、適正規模あるいは小中連携等々、話題にされていますし、それから15ページのところには教育力向上と、それから主体的、対話的で深い学びを実現するための学び合い等も提言されていますので、やっぱり学校教育の充実というか成果を上げるということが、もっと夢を実現させるのが大事だと思ひていて、そのためには学力をどのように向上していくかとか、どんなふうクリアに生きていく力を育てていくかということ、各学校間でも共有しながら話し合いを進めて、中野市全体として、こんな取り組みをしながら子ども達を育てていきたいと、それを日常の教育活動のなかで継続的にする活動を通して育てていこうという、絵に描いたビジョンだけではなくて、具体的な活動を見据えていく必要があるなと思ひています。高社中学校で「無言清掃」というのを取り上げられて、今も伝統になっていると思うのですが、毎日継続して行く掃除という作業を通して色んな気づきだとか、思ひ入れだとか、感謝の気持ちだとか、色々な子ども達に育てたい。そういう素質だとか、力が育つだとか、継続的な取り組み、これもやっぱり柱になるのかなと。南宮中学校さんでは、あいさつと掃除と歌声というのを三本柱で継続的に取り組んでおられます。各学校でもそういう柱にしているような活動ですが、そういった活動を大事にしながら、こういうふう、こういう姿の子ども達を目指すことだけでなく、それになるためにどういった具体的な活動を毎日継続していくかということ、持っている必要があるかなと思ひます。以上です。

市長：他に。永江教育委員さん、いかがでしょうか。

永江代理：5番の①なのですけれども、障がいのあるお子さんたち、色々な適切な学びの場を保護者の方と話し合っただけで決めているようなんですけれども、たぶん未だに飯山養護学校の子どもたちは中野市から行っている子が多いんですよね。中野市から行っている子が飯山養護学校の大半を占めているというところで、須坂市みたいに、とは言いませんけれども、中野で、この地域でそういう学校というか設備を設けてもらえたらなと思います。飯山市まで行くのではなくて、中野市内で少しそういう教育ができるのであればありがたいなと。中野市内にいれば自分の行く小学校にもすぐ顔を出せますし、そういうような気もしております。とにかく飯山養護学校に行く子どもたちは中野市の子どもが一番多いということが、前から気になっていたのでお話しをしました。

市長：はい、他にございますか。よろしいでしょうか。それでは全体を通して何かございましたら、言い忘れたことなどございましたら、遠慮なくどうぞ。はい、教育長さん。

教育長：④の中学校の部活についてなのですけれども、国のほうでも休日の部活動については学校職員ではなくて、いわゆる外部の、地域の方たちが引率をして、というように打ち出しています。これは教育委員会だけでどうにかなるというようなことではないので、市としても中学校の部活動の在り方といいますか、そこらへんを全体で考えていただけるとありがたいなと。少子化でなかなか部活動の数や中身が、内容が限られているために学区内の中学校ではなくて、学校を超えての就学希望、中学校進学ということが現実的にはございます。そういうことも含めて部活動問題というところも、ぜひ市として一緒に大事に考えていただければと思います、以上です。

市長：他にございますか、ないようでしたら中野市教育大綱の進捗状況は以上とさせていただきます。

## (2) その他

市長：会議事項(2)のその他について事務局から何かありますか。ないようでしたら本日予定いたしました会議事項はすべて終了いたしました。ありがとうございました。お疲れ様でした。